



教師にとっての父性と母性

コスモスハーモニーへのお便りが止まりません。
また2通ほど紹介させていただきます。

渡辺先生、こんにちは。

他のママに誘われ、今週は流れで2日連続で授業見学をすることになったのですが、この2日間で私が感じたことや気づきを書かせていただきたいと思います。

まず、先月の授業参観では1組で渡辺先生の授業を見て、私はクラスの一体感や子どもたちのエネルギーで前向きな姿勢に圧倒されました。

夫も感動して、渡辺先生の教師としての能力の高さに驚いておりました。夫婦で「他のクラスでもこんな授業がおこなわれているのかな？やっぱり渡辺先生だから特別なのかな？」と話していたのですが。

今回の授業見学では、ほかの先生方の授業もいろいろと見ることで、正直、子どもたちも先生によって態度を変えてるところがあり、ふざけたり、だらけた雰囲気になっていた授業もありました。

やはり渡辺先生が教室に入ると緊張感があるというか、ピリッとした空気感に一気に変わりますね。

生徒たちをぐっと引き付けて前に意識を集中させる、だらける隙を与えない、常に場の空気をコントロールする主導権を握る、などベテラン教師の力量を感じました。

授業の間にチャイムがないにも関わらず、子どもたち自身で時間割をきちんと把握して準備しているのはすごいなと感心しました。

廊下に置いてあるテキストなどを、自然と手分けして配っているのにも驚きました。

困ってそうなお友達がいたら、複数の子が「〇〇くん、大丈夫？」と声をかけている姿も見られました。

また、「失敗は宝物！」「失敗は成功の母なんだよ」というような発言も複数の子から聞くことができました。

実際多くの子が失敗を恐れずに、手をあげてどんどん発言していたのも印象的でした。

(間違いや少し的外れなことを子どもたちが言っている、いつも先生方がそれを否定することなく、褒めたりフォローしているからでしょうね。)

渡辺先生が普段から伝えている言葉が、しっかり子どもたちの中に根付いて、言葉や行動という形になって芽を出していること。

コスモスハーモニーに書いてある言葉は、ただ理想論を語っているだけではない、ということを目の当たりにして感動しました。

さらに個人的に新しい発見だったのは、生徒の行動目標や基準が極めて具体的に提示されていることでした。

ソランの成績評価は S,A,B,C の絶対評価であり、正直なじみがないスタイルでややわかりにくい印象でしたが。

授業中に先生が、この表を全部埋めることができればA、さらにプラスしてこんな事までできればS、などと明確に示されているのに驚きました。

他にも大きい声を出している子がいたら、他の子が「その声は3だよ、今は1の声で話すんだよ。」と注意しているのも興味深かったです。

子どもに対する声かけで、「ちゃんと」「しっかり」など抽象的なのはNGであり、なるべく具体的にどうすべきか明確な指示を出した方が良く、教育本にはよく書かれています。

ソランでは想像以上にそれが徹底され、いろんな事が生徒にわかりやすいかたちで提示されているなと感じました。

6月の授業参観に比べると、今回の授業見学ではよりリラックスした普段の子どもたちの姿が見れてうれしかったです。

当たり前だけど大切なことを、息を吸って吐くように、本当に当たり前実践してる姿は美しいですね。

クラスの中に優しくあったかい、お互いを助け合おうとする空気が流れ

ているのが素敵だなと感じました。

ソランの子どもたちには、このまま健やかにのびのびと真っすぐ成長してほしいと願ってやみません。

こんな最高の環境で育ったら、みんなこの先いったいどんな大人に成長するのか、ワクワクしますね。

保護者が希望を出せばいつでも見学できる学校もなかなかないと思うので、いつもオープンな雰囲気迎えくださる先生方にも感謝しかありません。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

ペンネーム「AYA」さんより

AYAさん、素敵なお便りを誠にありがとうございます。

この一通のお便りだけでどれだけでも返信が書けそうですが、その衝動をグッとこらえつつ要点を絞ってお返事させていただきます。

まずは、授業参観のご感想をありがとうございました。

以前も書きました通り、色んな山や谷を共に越えつつ迎えたのがあの日の参観でした。

子どもたちが磨いてきた力と、それを周りで見守るお家の方々の熱い視線など、色んなものが重なり合わさってあの場が実現できたと感じています。

授業は生き物ですから、私はその場の雰囲気や予定していた内容を削ったり、予定していなかった内容を加えたりと臨機応変に色んなことをしました。

つまりは、あの場に居合わせたすべての方々の化学反応によって生まれた合作だということです。

授業中に涙される保護者の方の姿や、授業後に感極まってハグに行ったお子さんの姿など、いずれも私もはっきり記憶しています。

そうした諸々の素敵な雰囲気などを作ってくださったお家の方々に、こちらこそ感謝しております。

あれだけ腕が鳴る機会は、これまでの教師人生を振り返っても数えるほどしかありません。授業はいわば私の人生であり、これまでの教師人生の中で心血を注いできた努力の結晶でもあります。

人は、自分の大切にしているものを認められた時が最も嬉しい瞬間であるという一節を読んだことがあります。AYAさんのお便りを見て私はまさにそのような気持ちになりました。ありがとうございます。

もちろん、全てのクラスにおいて、その場限りの素敵な化学反応が生まれたことは間違いありません。

同じ演奏が二度と出来ないのと同じで、同じ授業も二度と再現することは不可能です。

一期一会のその瞬間を共に味わうことができ、大変うれしく思いました。

また、2日間通じての参観のご感想もありがとうございました。

リラックスしている時、だらっとしている時、グッと集中している時、書いて下さっているように子どもたちは本当に色々な顔を見せます。

それは、以前書いた「分人主義」にもあるように、その場のその人との関係によって自分の力やキャラクターが引き出されるために起きることです。

ちなみに、私が大学生の頃は、教授から次のことをよく言われました。

「教師は父であり、母であれ。」と。

子どもが育っていくには、父性原理と母性原理、どちらも欠かせません。

大きく受け止め全てを包むような母性原理も必要ですが、以前書いた会津藩の教えのように「ならぬものはならぬ」と導いていく父性原理も必要です。

「学級担任制」つまり一人の教師を担任する時は、男性教師であろうが女性教師であろうが、一人二役（父性と母性）を務める必要がありました。

一方で、SOLAN においてはこれだけ多くの先生が子どもたちに関わるわけなので、自然と学年団の中で役割分担が成されているように感じます。

そういう意味で、私の現在の立ち位置は9割がた父性役です。

それは、学年団の中のメンバーや立ち位置によって引き出されるものなので、自然とそうなったとしか言いようがない部分があります。

つまり、現在の1年生学年団は母性的な方が多いメンバーであるということです。

ですから、学級担任制の頃の私は、現在よりもずっと母性的に仕事をしていました。

そうした意味では、現在の立ち位置による父性的なものを子どもたちも鋭敏にキャッチしているのかもしれませんが。

また「失敗は宝物」などの子どもたちのふとした声をキャッチしてもらったことには特に感動しました。

声は肥え（こやし）とも言いますが、普段からどんな言葉に触れて、どんな言葉を使ったかによって人生は大きく変わると言われます。

そして、それはひとえに「周りの大人の語彙力や使用言語」が子どもたちの成長に大きくかかわると様々な形での報告がなされています。

もちろん、子どもたちの生活は地続きですから、学校と家庭が連携してこの「言葉」についてこだわっていくことが大切なのは疑いようがありません。

ご家庭で大切にされている「言葉の教育」のお話、またどこかで聞かせてもらえると嬉しいです。

他にも、子どもたちが助け合いながら準備をしている姿など、細かやかに子どもたちの成長をみとっていただき、とても嬉しい気持ちになりました。

要点を絞ると言いながら、ついつい筆が走ってしまいました。

素敵なお便りをありがとうございました。

本日よりジャンプスタートに参加させていただきました。

とても嬉しいことがあったので、お礼を言いたくて投稿させていただきました。

まず、ジャンプスタートとはを息子に伝えるにあたって、英語の授業だというと嫌がったら危険だなと保険をかけ「遊びながら英語をするアフタースクールのクラスに行くことになったんだよ。」と伝えておきました。

息子は「誰がいるの?」と聞いてきましたが、「誰がいても SOLAN の仲間だから安心して」というと納得してくれました。

本日、帰ってくるなりご機嫌で、「ジャンプスタートすっごく楽しかった!」と話してくれ—安心しました。

その後、寝るまでの間、英語が止まりませんでした。

お風呂から出た後に、家族でカルタをしたのですが「お母さんにはヒントあげるね」と優しく?してくるのでなぜかを聞くと「SOLAN 小学校を見つけて通わせてくれた人だから優しくしたくなったんだよ。」と思いがけない回答にほっこりしました。

お父さんも同意してくれたから通えることも伝えましたが、今日は特に学校が楽しかったようでした。

英語が苦手な児童が、楽しみながら学べるプログラムと手厚いご対応ありがとうございます。

嫌がったらどうしようかと心配していた自分が恥ずかしくなりました。

返信不要でメールにするかこちらから投稿するのか迷いましたが、親子共に感謝の気持ちを先生方にお伝えたくこちらから投稿させていただきました。

た。

お便りを読みながら、思わずグッと胸にせまるものがありました。

このお便りをジャンプスタートを担当されている先生方が読んだらどれほど嬉しいだろうと想像したからです。

SOLAN に入学することも、アフタースクールを経験することも、ジャンプスタートで学ぶことも、あらゆる「初めて」を経験する時には、不安や緊張がつきものですよ。

そして、その緊張や不安を乗り越えた時の爽快感や充実感は、恐らく感じた人にしか分からないほどの喜びであることが多いのだとも思います。

SOLAN の子たちの凄いところは、恐らく日本でもこの学校でしか体験できない「初めて」を山ほど体験しながら、それを乗り越えている所なんだと私は感じています。

そして、きっとそれは、お家の方々にとっても「初めて」のことなんですよ。

なぜなら、我々が受けた日本の学校教育とは大きく違う内容や仕組みのオンパレードだからです。

教えている私たちでさえその変化の速度についていくのがやっとという時もあるのに、それを日々ご家庭からしっかりと支えて見守って下さり、本当にありがとうございます。

このお便りを、英語を担当されている先生方に早く見せたくて仕方ありません。

きっと、深く心を揺さぶられ、「明日からの授業をもっと頑張ろう」という活力につながることは間違いありません。

最高の形での「カ水」を、ありがとうございました。(渡辺道治)